

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371401353		
法人名	有限会社アートプロジェクト		
事業所名	グループホーム名古屋尾崎山の家		
所在地	名古屋市緑区尾崎山1丁目1101		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	平成23年5月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域社会との連携をはかり、相互の理解を深めるよう努めている。例えば防災訓練に参加して頂き、いざという時の協力をお願いしている。
また、入居者様ひとりひとりのご希望が少しずつ実現(自己実現)できるよう支援している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市千種区内山1-11-16		
訪問調査日	平成23年1月11日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念をわかりやすく作り変え、職員全員が生き生きと楽しそうに利用者へ接し、利用者も非常に穏やかな表情で過ごしている。利用者の思いや希望を日常を通して汲み取るように努め、それを職員間で情報の共有をすることで実践に繋げている。運営推進会議では、地域包括支援センター職員の参加も加わり、話し合った議題を実現、実行するように努力をしている。又、地域のボランティアによる 手芸、歌、ギター、フラダンス、紙芝居など地域との交流も活発に行われていて、最近では利用者の家族による本の読み聞かせが、利用者に変え喜ばれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所や玄関などに掲示している。職員と協力して新しい理念をつくり、共有している。	グループホームが出来て5年たち、時間をかけ職員全員で協力して、理念をわかりやすく作り直した。それをいつも目に留まる場所に掲示し、意識をしながら支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内清掃、廃品回収、自治会加入、自治会の旅行、盆踊りなどに参加し、地域の人々対話し尾崎山の家を知って理解頂けるよう交流している。	地域の夏祭りには積極的に参加し、秋祭りには、催し物である獅子舞が来所して楽しんでいる。散歩や花見は、近くの公園に立寄り子供達と遊び、又公園の清掃などで近隣の住人と交流が出来る様になった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学にみえたり電話での問い合わせにできる限り情報を提供している。急な見学にも対応、申し込みできる体制となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、現在の取り組みや利用者の状況をお伝えし意見をお伺いしている。	運営推進会議に、地域包括支援センター職員の参加もあり、名古屋の介護関係の情報ももらっている。又、議題に上った防災訓練に自治会の参加をつのるなど、実践に向けての取り組みをしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の入居者が5人おり、日頃から相談や情報を得るなど積極的に連絡をとりあっている。	介護保険課と保護課との連絡は、特に密にしており、例として、年末年始の対応は、重要事項として連絡ノートに記してあるなど、市との連携は取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	1階2階職員協力して見守りをしたり介護方法を検討して、身体拘束のないケアを実践している。	利用者本意に考えて、職員全員が、身体拘束について話し合いをしてサービスに生かしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	本部からの研修や職員会議で勉強会を重ね、日々虐待につながる言動がないか絶えず確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を利用されている入居者がいて要望もおりおりあるので、職員が支援員と連絡をとる中で理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に至る前から納得頂けるよう時間をかけ説明している。疑問点は本部等に確認して正確な応答を心かけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や入電時に十分な対応を心がけ、必要時には本部に確認しつつ意見を汲み取り、疑問が残らないようにしている。	月1回以上家族の来訪があり、その面会時や電話での家族からの要望や意見、利用者の要望は、全て真摯に受け止め、職員全員で話し合い、早めに対処し 家族の信頼を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回職員会議を開き、運営に関する事を伝達し、職員に意見や提案をだしてもらっている。	意見交換がしやすい環境づくりがされており、職員は違和感なく楽しい雰囲気です仕事に従事している。管理者と個別に話し合う機会も設けていて、意見や提案の実現に努力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいをもって働いていけるよう、環境を整える努力をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務体制を整え、各職員が研修を受ける機会を随時勧め、提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内のグループホーム分科会やグループホーム協議会等に参加して研修や交流をはかっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から入居後落ち着くまで本人と対話の機会をしっかりともち、小さな事も大切にしてい気持ちや意向を反映したケアにつなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	納得がしっかりいかれるまで対話の機会をもち、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関係機関と連絡をとり情報を集め、本人や家族の困っている事、要望や本人の持っている力などを早急にアセスメントし支援開始する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いの経験や知識、思いを尊重し、かつ自由に意見が言い合え話しあえる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族それぞれの立場の思いを受け止め、本人の様子を知り家族が本人のあらたな面を発見したり、喜びをもったり、心穏やかに本人を支援できるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	月1回は家族への連絡や来訪依頼を行っており、本人が望んでいる様子なら本人と一緒に外出の機会も持っていただくよう支援している。	近隣の情報収集をし、利用者の過去の趣味や生活習慣などをふまえて外出支援をしている。家族と一緒に美容院や思い出の地へ出かけることで家族が無理な場合は、職員が手伝っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が日々細かい配慮を行い対話と交流の支援を行うなか、利用者同士のかかわりの機会ももっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了されても、本人にや家族の相談を受けた時は必要な支援を行っている。情報はまとめてしっかり管理している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランの作成や更新時、状態変化時は当然であるが、日々職員が把握に努めている。困難な場合は、本人が言葉で言えらしたらどうか、など少し前の状態なども思いめぐらせて汲み取っている。	ケアプランに基づいた、本人が希望することへの支援と共に、日々の会話や表情など日常から得られる情報も大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	他機関からの情報収集や本人と家族との入居時の面談のみでなく、日々の生活の中で本人と家族の言動から情報を集め共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々心身状態は変化するので、小さな事でも申し送りや記録を行い、全職員が把握し業務にかかれるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の望む生活や家族の思いを大切に、その人らしい生活の実現やサポートについてユニット別に極力全職員の意見を聴衆し、ケース会議で検討し計画作成している。	家族には面会時や電話連絡を入れた際に、介護計画の確認や要望を聞くようにしている。ケース会議では、全職員の意見を集約しプランに反映させ、実践に努めている。日々の介護記録をしっかりとつけることで、支援の質の向上に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、介護詳細記録、排泄記録、看護記録、申し送りノートに記入し情報の共有に努めている。受診時には細かく情報提供し相談している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域とつながりがもてるようなサービスをあらたに検討し開始した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お話会や歌や踊りのボランティア、消防署との防災訓練など地域資源の力を積極的に取り入れ、安全で楽しく豊かな生活を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医(内科・歯科)は月2回の往診の他、必要時には通院の付き添いを行っている。必要な場合は紹介状を頂いて他機関を受診できるようにはかっている。	月に2回協力医の往診がある。入居前からのかかりつけ医への受診は、基本は家族対応としている。また複数の病院へ受診する際は、情報提供あるいは紹介状で薬などの服用状況を伝え、医師間で情報共有と連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回出勤の看護師へ相談。必要時や緊急受診時は受診の支援や本人・家族・医師への説明等、看護師が随時行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人・家族に了解を得た上で病院側と連絡をとり、治療や今後の相談などに努めている。退院時は病院の指示にもとずいたサービスの提供がはかれるよう準備する。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の体調の変化にともない、本人・家族との話し合いを行っている。かかりつけ医と連携し意見を取り入れ支援している。	入居時にホームでどこまで対応が出来るかを利用者や家族に説明をしている。できるだけ要望や意向に沿えるよう、利用者が重度化してきた際は、早めに話し合いの機会を設け、支援の方向性を共有するよう努めている。	今まで看取りの実施はないが、今後は看取りにおける支援の取り組み方や、また研修などを踏まえて、職員間の情報共有を図っていくことを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルは作成している。入居者ひとりひとりのリスクを想定してAEDも一部職員が研修済である。今後訓練も行っていく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	連絡体制は全職員周知している。防災訓練を1年に2回行っているが、日頃から災害を想定し避難方法について確認を行っている。地域の自治会にも参加し協力体制がえられるよう配慮している。	年に2回、利用者も一緒に夜間想定も含めて避難訓練を実施している。消防署も立ち会い、避難時における助言とアドバイスも受けている。また緊急時のマニュアルもあり、各職員が対応できるようにしてある。	民生委員や自治会へ呼びかけ、地域の人と一緒に避難訓練に参加してもらえるよう期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	朝の申し送りや職員会議などをつうじて、言葉使い、動作について気づきや振り返り、確認を行い職員の共通認識にしている。	利用者が人生の先輩であることを念頭に置き、その人らしさを尊重した支援を心がけている。また、管理者から職員へ、利用者の前で身体状況など個人的な情報を話さないよう、注意を促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が遠慮や気兼ねをせず思いを伝える事ができる信頼関係の構築に努め、本人が自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご自分からは何も言われぬ方についても、本人の思いを想像したり感じ取り、おりおりお誘いするなどして機会をもっていくようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の難しい方には訪問理美容を利用し満足して頂いている。買い物に行きたい方には個別に対応し、身だしなみの購入等楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人個人の関心や能力を見極めた上で、調理に限らず参加できる部分はして頂いている。	嗜好調査を年に2回実施し、利用者の好きなメニューなどを献立に取り入れたり、食事への満足度を把握するように努めている。BD会にはちらし寿司やケーキ、新年会には鍋物料理を出して利用者からは大変喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分があまりとれない方には声かけや介助を行う。食べやすい形態、嚥下しやすい形態を配慮し、時にはかかりつけ医に相談し栄養補助飲料や点滴の処置など受ける。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きの声かけをしている。自分で十分できない方は介助している。訪問歯科の治療を受けた方はその後定期検診もありその都度確認してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人個人のパターンや状態に応じてトイレ誘導やパットの使い方の工夫など工夫を行い、本人の持ち得る能力を最大限生かして頂きながら必要な支援を行っている。	一人ひとりのリズムに合わせた排泄支援に取り組んでいる。声かけの際も声の大きさやトーンにも配慮している。風邪などで体調変化がある時はオムツを使用することもあり、臨機応変に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容や水分、運動など日々留意しているが、習慣的に強い便秘の方には温マッサージを行ったり前もって便秘薬を処方して頂き、様子を見ながら投与している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎回全員が入浴できるように配慮している。必要であればいつでも入浴できる。	基本的に週に3回入浴を実施し、希望があればそれに沿うようにしている。また体調によって入浴が出来ないときは、清拭を行い清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	布団干しや掛けものの調整、温度湿度の調整など環境を整えるよう日々心がけている。昼夜逆転の方には生活リズムの修正を少しずつはかっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	心身状態に変化があった場合には薬の副作用の点からも検討。医師に状態を報告する。薬剤情報表、薬剤管理表、お薬手帳を活用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分から何かをやりたいと言われる方は少ないが、昔していた事、関心のある事、好みそうな事などを行う機会を日々提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	昔過ごしていた懐かしい街へ外出を計画し、介護タクシーを利用して出かけた事は、それぞれの方にとずっと楽しい思い出となっている。お祭りや盆踊りにも参加し地域の人との話もはずむ機会があった。	近所への散歩や買い物、また喫茶店へはよく出かけている。利用者が外出を希望した時は、可能な限りすぐに対応出来るようにし、外へ出かける喜びを大切にしている。また、家族の協力のもと週末の外出やお盆、お正月の帰省もしている。	利用者の為に、まだまだ出来る事や挑戦したいことがたくさんあると考えている。個別支援も含め職員間の情報共有を図り、それを実践できることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理や所持に不安がある方は権利擁護の制度も利用しながら、本人が納得いくよう職員がかかわり支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話で話したい方には電話をかけてきて頂けるよう日常的に支援し、家族と本人の良好な関係維持に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れた作品を季節に先駆け飾り付け、ここでの思い出の写真を飾ったり草花を欠かさず生けるなど、暖かな空間づくりを行っている。日当たりや換気、温度設定なども日々留意している。	利用者が快適に心地よく過ごせるよう、毎日の清掃をしっかりと行っている。外出先で撮った利用者の写真や季節感のある飾りつけが、ホーム全体を明るく温かい雰囲気に行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブルとソファスペースを分け、玄関前にはベンチを置くなど自由に寛げるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛着のあるものを手元に置き精神的にも安定できるようにはかっている。本人の好みや習慣も配慮しながら、さしさわりのない範囲で清掃やかたづけを行っている。	個々の希望に応じて、入居の際に好きな家具や物を持ち込んでもらっており、その人らしい居室になっている。日々の部屋の換気にも配慮して、臭いがこもらないようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者が混乱しないようわかりやすい表示や、浴室など日により使わない空間は施錠するなど安全に配慮している。		

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2371401353
事業所名	グループホーム名古屋尾崎山の家

【重点項目への取組状況】

重点項目 ①	事業所と地域とのつきあい (外部評価項目：2)	評価
	地区の催し物や祭りなどの行事に参加し、ホームを周知してもらえるよう積極的に交流を図っている。またホーム前にある公園の掃除を、地域の人と一緒にボランティア活動として行っている。	○
重点項目 ②	運営推進会議を活かした取組み (外部評価項目：3)	評価
	年に6回、定期的を実施出来ている。今年より地域包括支援センターの参加協力も得られた。また介護用品を扱う福祉プラザの職員も参加し、現場で使える福祉用具の情報提供をしてもらい、実際に現場で活かす介助用具を取り入れ、より良いサービスの提供に努めている。	○
重点項目 ③	市町村との連携 (外部評価項目：4)	評価
	日頃から区の担当者にホームの現状報告をすると共に、入居の空き状況や待機者の問い合わせについて、こまめに情報交換をし連携を図っている。	○
重点項目 ④	運営に関する利用者、家族等意見の反映 (外部評価項目：6)	評価
	家族から頼まれた要望には、責任を持ってできるだけ迅速に対応し支援に繋げている。利用者に関して何かあれば、必ず事前に連絡を入れ思いを聞きくように努めている。何事も事後報告ではなく事前相談をしている為、家族から信頼と安心が得られている。また、利用者の家族が読み聞かせのボランティアを定期的で開催し、ホーム活動を一緒に盛り上げてもらっている。	○
重点項目 ⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		○

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価	×	○				

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況 (外部評価) が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認 (記録、写真等) できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域のつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取り組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的 (年2回以上) に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的 (年2回以上) に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。

